

# JPCERT/CC インシデント報告対応レポート

2024年10月1日～2024年12月31日



一般社団法人 JPCERT コーディネーションセンター

2025年1月23日

# 目次

1	インシデント報告対応レポートについて	2
2	四半期の統計情報	3
3	インシデントの傾向	9
3.1	フィッシングサイトの傾向 . . . . .	9
3.2	Web サイト改ざんの傾向 . . . . .	10
3.3	標的型攻撃の傾向 . . . . .	10
3.3.1	FortiManager の脆弱性 (CVE-2024-47575) を悪用した攻撃 . . . . .	11
3.4	その他のインシデントの傾向 . . . . .	11
4	インシデント対応事例	13
4.1	Ivanti Virtual Traffic Manager の脆弱性により侵害された可能性がある国内機器への通知 . . . . .	13
	JPCERT/CC からのお願い	14
付録 A	インシデントの分類	15

改訂履歴：

2025年 1月23日 初版

2025年 1月23日 図2.8 差し替え

本活動は、経済産業省から委託を受け、「令和 6 年度サイバー攻撃等国際連携対応調整事業」として実施したものです。

# 1 インシデント報告対応レポートについて

一般社団法人 JPCERT コーディネーションセンター（以下、「JPCERT/CC」という。）では、国内外で発生するコンピューターセキュリティインシデント（以下、「インシデント」という。）の報告を受け付けています\*1。本レポートでは、10月1日から12月31日までの間に受け付けたインシデント報告について、統計など定量的な観点と、特筆すべき事例など定性的な観点から紹介します。

JPCERT/CC は、インターネット利用組織におけるインシデントの認知と対処、インシデントによる被害拡大の抑止に貢献することを目的として活動しています。国際的な調整・支援が必要となるインシデントについては、日本における窓口組織として、国内や国外（海外の CSIRT 等）の関係機関との調整活動を行っています。

---

\*1 JPCERT/CC では、情報システムの運用におけるセキュリティ上の問題として捉えられる事象、コンピューターのセキュリティに関わる事件、できごとの全般をインシデントと呼んでいます。

## 2 四半期の統計情報

本四半期のインシデント報告の数、報告されたインシデントの総数および報告に対応して JPCERT/CC が行った調整の件数を表 2.1 に示します\*1。

本四半期に寄せられた報告件数は 9,743 件でした。このうち、JPCERT/CC が国内外の関連する組織との調整を行った件数は 3,597 件でした。前四半期と比較して、報告件数は 10% 減少し、調整件数は 8% 増加しました。また、前年同期（報告件数は 10,273 件、調整件数は 5,444 件）と比較すると、報告数は 5.2% 減少し、調整件数は 34% 減少しました。

図 2.1 と図 2.2 に報告件数および調整件数の過去 1 年間の月次の推移を示します。

JPCERT/CC では、報告を受けたインシデントをカテゴリ別に分類し、各インシデントカテゴリに応じた調整、対応を実施しています。各インシデントの定義については付録 A インシデントの分類を参照してください。本四半期に報告を受けたインシデント報告件数のカテゴリ別内訳を表 2.2 に示します。また、カテゴリ別割合は図 2.3 のとおりです。

フィッシングサイトに分類されるインシデントが 86%、スキャンに分類される、システムの弱点を探索

表 2.1 インシデント報告関連件数

	10月	11月	12月	合計	前四半期合計
報告件数	3,465	3,339	2,939	9,743	10,797
インシデント件数	1,889	1,713	1,959	5,561	5,147
調整件数	1,286	1,119	1,192	3,597	3,331

表 2.2 インシデント報告件数のカテゴリ別内訳

インシデント	10月	11月	12月	合計	前四半期合計
フィッシングサイト	1,619	1,476	1,685	4,780	4,233
Web サイト改ざん	8	21	24	53	93
マルウェアサイト	11	11	14	36	25
スキャン	74	77	82	233	374
DoS/DDoS	0	3	1	4	9
制御システム関連	0	0	0	0	0
標的型攻撃	0	2	0	2	6
その他	177	123	153	453	407

\*1 報告件数は、報告者から寄せられた Web フォーム、メールによる報告の総数を示します。インシデント件数は、各報告に含まれるインシデント件数の合計を示します。1つのインシデントに関して複数件の報告が寄せられた場合にも、1件として扱います。調整件数は、インシデントの拡大防止のため、サイトの管理者等に対し、現状の調査と問題解決のための対応を依頼した件数を示します。

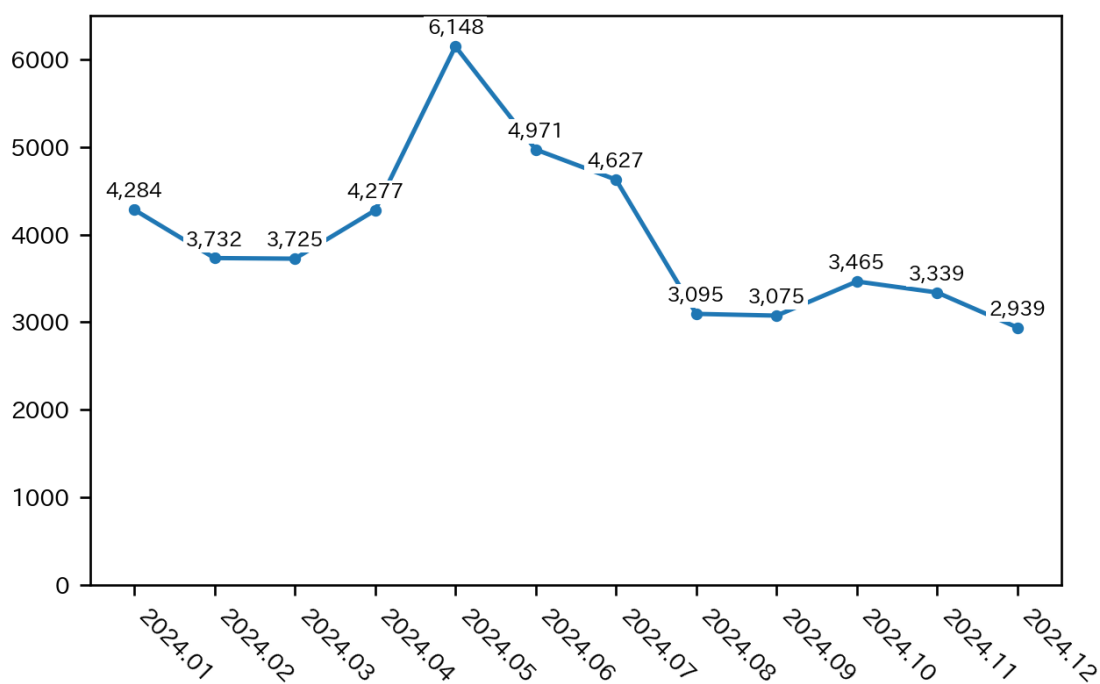


図 2.1 インシデント報告件数の推移

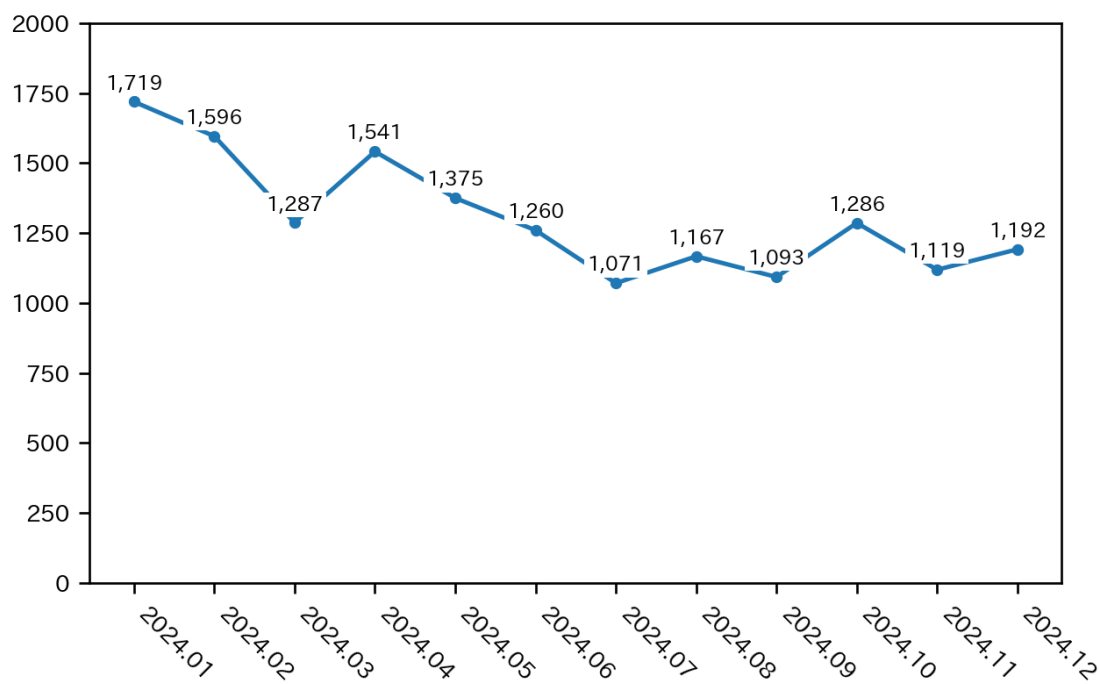


図 2.2 インシデント調整件数の推移

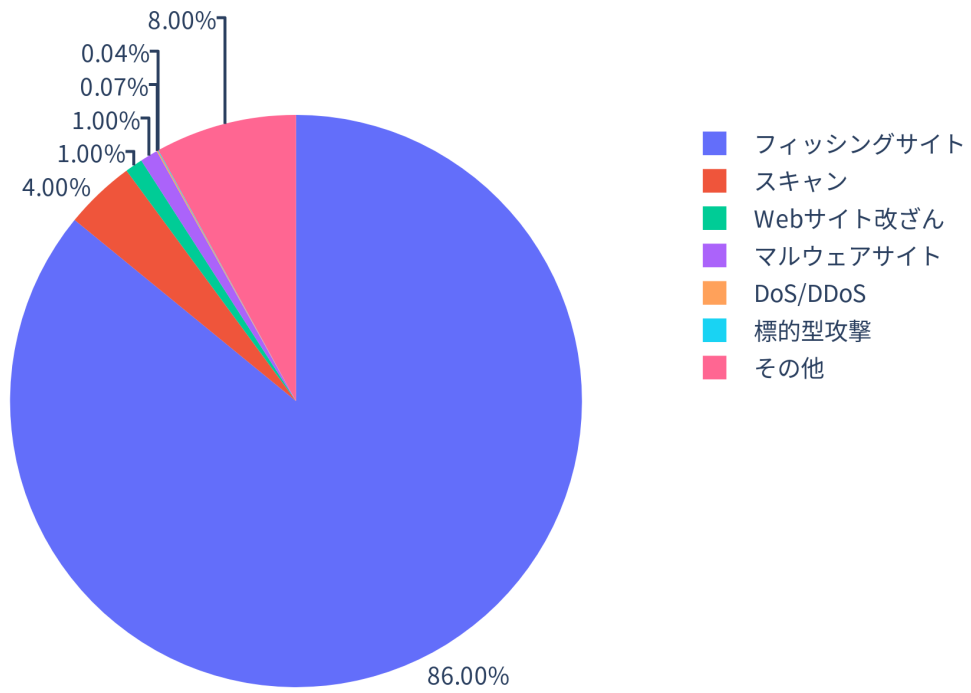


図 2.3 インシデント報告件数のカテゴリ別内訳

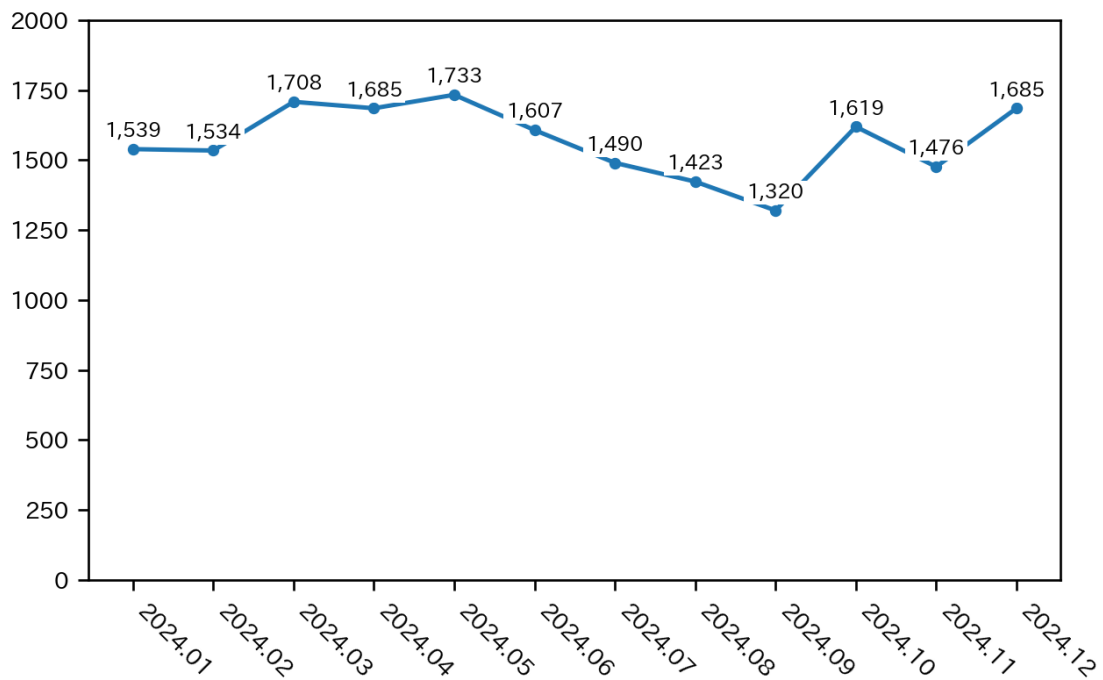


図 2.4 フィッシングサイト件数の推移

するインシデントが 4% を占めています。

図 2.4 から図 2.7 に、フィッシングサイト、Web サイト改ざん、マルウェアサイト、スキャンの各インシデントの過去 1 年間の月次の推移を示します。

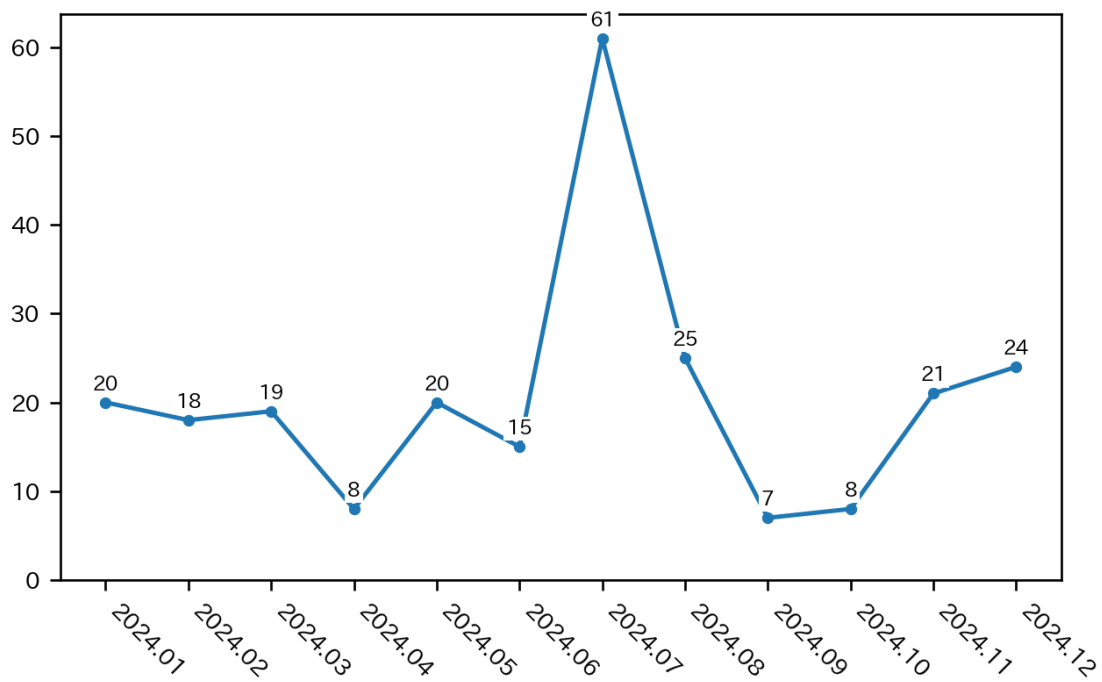


図 2.5 Web サイト改ざん件数の推移

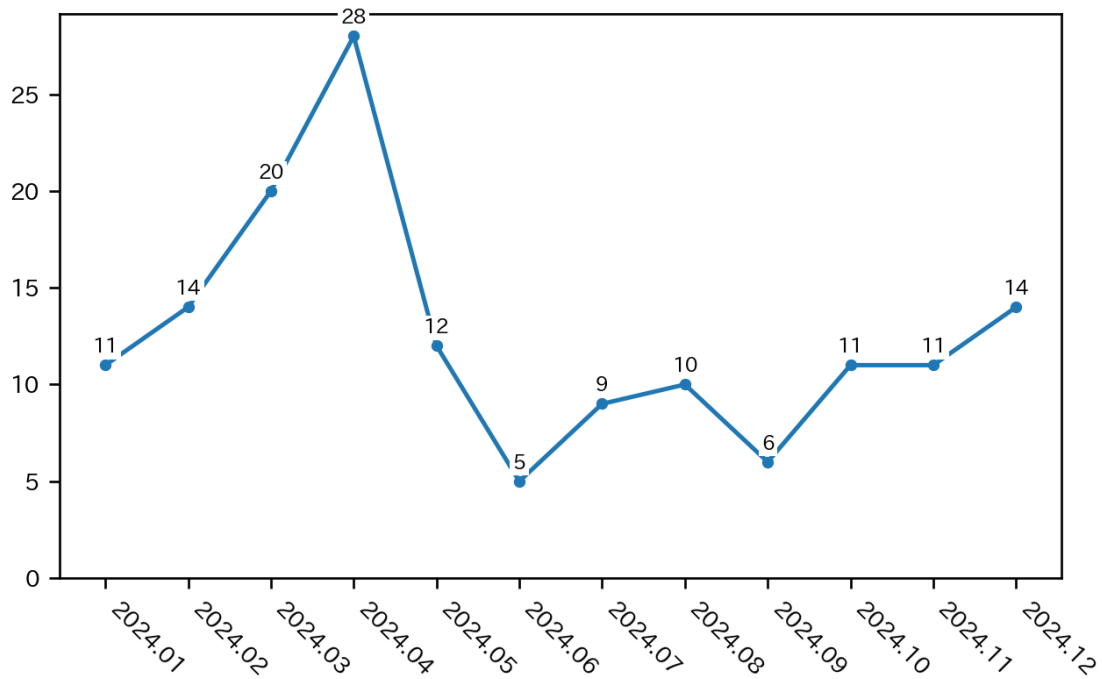


図 2.6 マルウェアサイト件数の推移

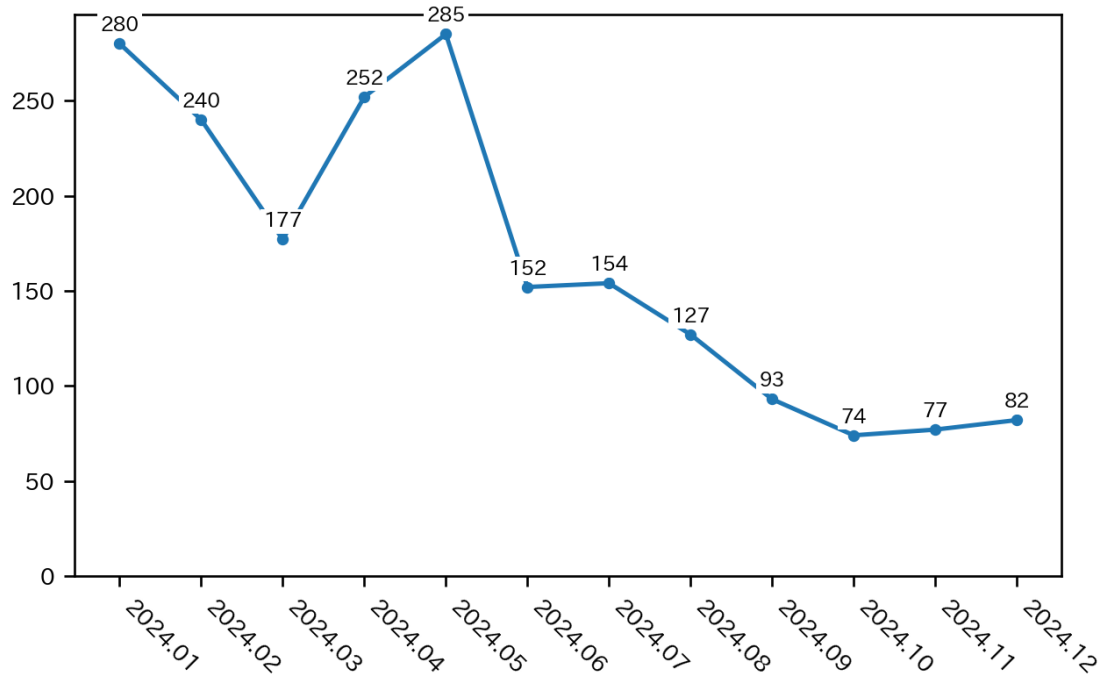


図 2.7 スキャン件数の推移

図 2.8 にインシデントのカテゴリごとの件数および調整・対応状況を示します。



インシデント件数 5,561 件		報告件数 9,743 件		調整件数 3,597 件	
フィッシングサイト 4,780 件	通知を行った件数 2,298 件 - サイトの稼働を確認	国内への通知 36%	海外への通知 64%	対応日数(営業日) 0~3日 14% 4~7日 42% 8~10日 7% 11日以上 37%	通知不要 2,482 件 - サイトを確認できない
Web サイト改ざん 53 件	通知を行った件数 49 件 - サイトの改ざんを確認 - 脅威度が高い	国内への通知 98%	海外への通知 2%	対応日数(営業日) 0~3日 29% 4~7日 18% 8~10日 6% 11日以上 47%	通知不要 4 件 - サイトを確認できない - 当事者へ連絡が届いている - 情報提供である - 脅威度が低い
マルウェアサイト 36 件	通知を行った件数 24 件 - サイトの稼働を確認 - 脅威度が高い	国内への通知 79%	海外への通知 21%	対応日数(営業日) 0~3日 29% 4~7日 29% 8~10日 14% 11日以上 29%	通知不要 12 件 - サイトを確認できない - 当事者へ連絡が届いている - 情報提供である - 脅威度が低い
スキャン 233 件	通知を行った件数 227 件 - 詳細なログがある - 連絡を希望されている	国内への通知 94%	海外への通知 6%		通知不要 6 件 - ログに十分な情報が無い - 当事者へ連絡が届いている - 情報提供である
DoS/DDoS 4 件	通知を行った件数 3 件 - 詳細なログがある - 連絡を希望されている	国内への通知 100%	海外への通知 0%		通知不要 1 件 - ログに十分な情報が無い - 情報提供である
制御システム関連 0 件	通知を行った件数 0 件	国内への通知 -	海外への通知 -		通知不要 0 件
標的型攻撃 2 件	通知を行った件数 0 件	国内への通知 -	海外への通知 -		通知不要 2 件 - 情報提供である
その他 453 件	通知を行った件数 285 件 - 脅威度が高い - 連絡を希望されている	国内への通知 87%	海外への通知 13%		通知不要 168 件 - 当事者へ連絡が届いている - 情報提供である - 脅威度が低い

図 2.8 インシデントのカテゴリごとの件数と調整・対応状況

### 3 インシデントの傾向

#### 3.1 フィッシングサイトの傾向

本四半期に報告が寄せられたフィッシングサイトの件数は 4,780 件で、前四半期の 4,233 件から 13% 増加しました。また、前年同期（4,473 件）との比較では、7% の増加となりました。

本四半期は、国外のブランドを装ったフィッシングサイトの件数が 504 件となり、前四半期の 597 件から 16% 減少しました。また、国内のブランドを装ったフィッシングサイトの件数は 3,690 件となり、前四半期の 2,883 件から 28% 増加しました。本四半期のブランドの国内外別によるフィッシングサイト件数の内訳\*1を表 3.1、国外ブランドと国内ブランドそれぞれのフィッシングサイト件数の業界別の割合を図 3.1 と図 3.2 に示します。

表 3.1 ブランドの国内外別によるフィッシングサイト件数の内訳

フィッシングサイト	10月	11月	12月	合計	割合
国内ブランド	1,177	1,179	1,334	3,690	77%
国外ブランド	163	173	168	504	11%
ブランド不明	279	124	183	586	12%
全ブランド合計	1,619	1,476	1,685	4,780	

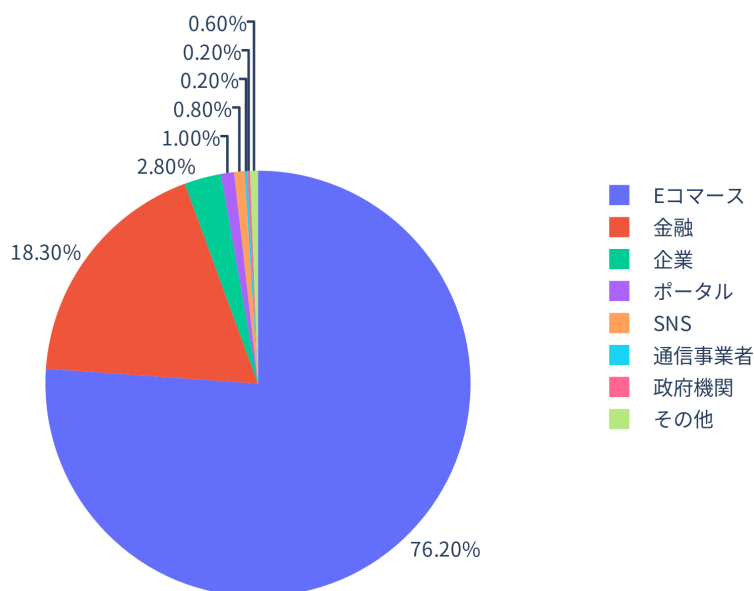


図 3.1 国外ブランドのフィッシングサイトの件数の業界別の割合

\*1 ブランド不明は、報告されたフィッシングサイトが確認時に停止していた等の理由により、ブランドを確認することができなかったサイトの件数を示します。

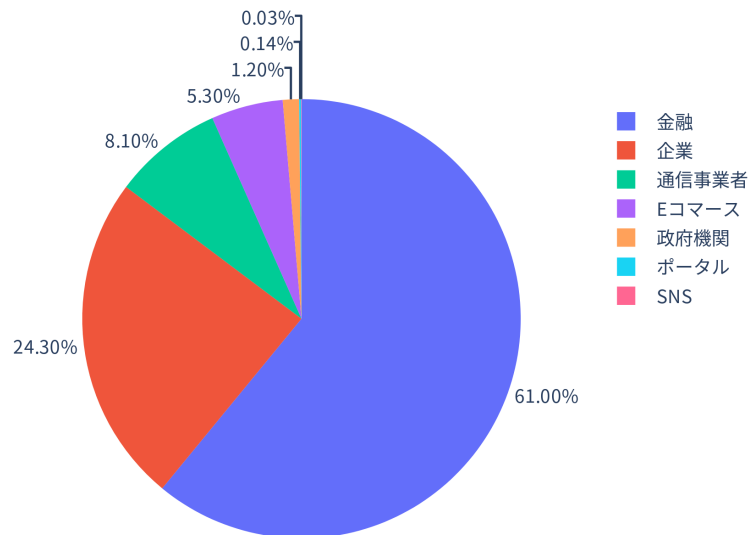


図 3.2 国内ブランドのフィッシングサイトの件数の業界別の割合

JPCERT/CC が報告を受けたフィッシングサイトのうち、国外ブランド関連の報告では E コマースサイトを装ったものが 76.2%、国内ブランド関連の報告では金融関連のサイトを装ったものが 61% で、それぞれ最も多くを占めました。国外ブランドでは、Amazon を装ったフィッシングサイトが 6 割近くを占めました。国内ブランドでは、JCB、えきねっと、PayPay を装ったフィッシングサイトが多く報告されました。また、国内金融機関に関しては、JCB の他にアイフル、イオンカードを装ったフィッシングサイトが多く報告されました。サイトテイクダウンのために調整したフィッシングサイトの内訳は、国内が 36%、国外が 64% で、前四半期（国内が 36%、国外が 64%）と同じ割合でした。

## 3.2 Web サイト改ざんの傾向

本四半期に報告が寄せられた Web サイト改ざんの件数は 53 件でした。前四半期の 93 件から 43% 減少しています。

本四半期は、EC サイトで商品購入時に入力したクレジットカード情報等を窃取する目的で、Web サイトを改ざんする事例を多数（19 件）確認しました。これは、2021 年に JPCERT/CC がブログで報告した EC サイトのクロスサイトスクリプティング脆弱性を悪用した攻撃事例と類似しており、改ざんされた Web サイトには図 3.3 のようなスクリプトが設置されていました。

- JPCERT/CC Eyes 「EC サイトのクロスサイトスクリプティング脆弱性を悪用した攻撃」  
[https://blogs.jpccert.or.jp/ja/2021/07/water\\_pamola.html](https://blogs.jpccert.or.jp/ja/2021/07/water_pamola.html)

## 3.3 標的型攻撃の傾向

標的型攻撃に分類されるインシデントの件数は 2 件でした。そのうちの 1 件を紹介します。

```

if (window.location.href.indexOf(" ") > -1) {
  if (document.getElementsByClassName(" ")[0]) {
    document.getElementsByClassName(" ")[0].
      addEventListener('click', function(e) {
        dujcaa()
      }, false)
  }
} else if (window.location.href.indexOf("mypage/login") > -1) {
  if (document.getElementById("login_button")) {
    document.getElementById("login_button").addEventListener('click', j1Bdata)
  }
} else if (window.location.href.indexOf("/shopping/login") > -1) {
  if (document.getElementById("login_button")) {
    document.getElementById("login_button").addEventListener('click', j1Bdata)
  }
} else if (window.location.href.indexOf("/entry") > -1) {
  if (document.getElementById("menu")) {
    document.getElementById("menu").addEventListener('click', j1BdataReg)
  }
} else if (window.location.href.indexOf("shopping/nonmember") > -1) {
  if (document.getElementById("button")) {
    document.getElementById("button").addEventListener('click', j1Bdata)
  }
}

```

図 3.3 ユーザーの情報窃取を狙った JavaScript のコード

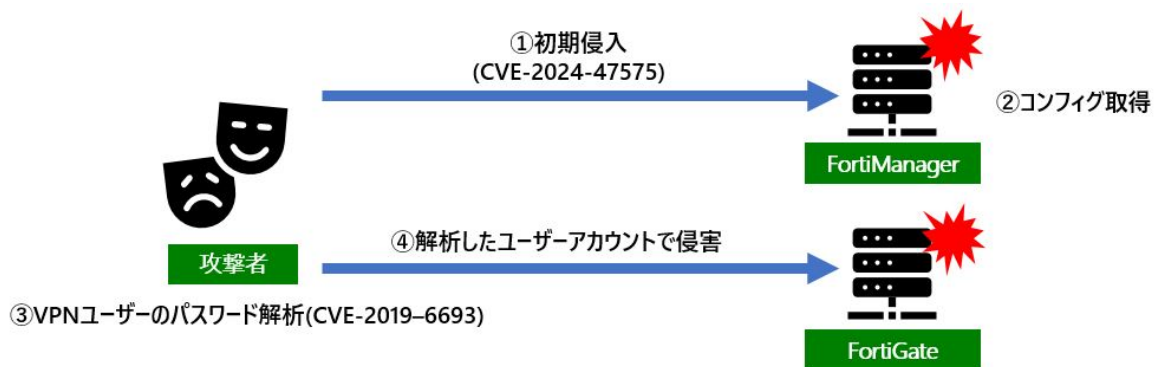


図 3.4 CVE-2024-47575 を用いた不正アクセスの流れ

### 3.3.1 FortiManager の脆弱性 (CVE-2024-47575) を悪用した攻撃

本四半期は、FortiManager の脆弱性 (CVE-2024-47575) を悪用した攻撃の被害報告がありました。当該脆弱性は 10 月 23 日に Fortinet によって公表され、本脆弱性を悪用することで認証されていない遠隔の第三者によって、細工されたリクエストが送信され、任意のコードまたはコマンドを実行される可能性があります。報告された事案では、保守運用会社が管理する FortiManager の脆弱性が悪用され、被害組織の FortiGate のコンフィグファイルが窃取されたことで、コンフィグファイルに記載されたユーザーアカウントを用いて不正ログインが行われたと考えられます。

図 3.4 に想定される不正アクセスの流れを示します。

## 3.4 その他のインシデントの傾向

本四半期に報告が寄せられたマルウェアサイトの数は 36 件でした。前四半期の 25 件から 44% 増加しています。

本四半期に報告が寄せられたスキャン件数は 233 件でした。前四半期の 374 件から 38% 減少していま

表 3.2 ポート別のスキャン件数の上位 10 位

ポート	10 月	11 月	12 月	合計
23/tcp	58	53	58	169
22/tcp	3	16	11	30
443/tcp	1	0	10	11
25/tcp	0	4	3	7
9530/tcp	1	1	1	3
37215/tcp	1	1	1	3
80/tcp	1	1	0	2
34567/tcp	2	0	0	2
88/tcp	1	0	0	1
8080/tcp	1	0	0	1

す。スキャンの対象となったポートの上位 10 位を表 3.2 に示します。頻繁にスキャンの対象となったポートは、Telnet (23/TCP)、SSH (22/TCP)、443/TCP、25/TCP でした。

その他に分類されるインシデントの件数は 453 件でした。前四半期の 407 件から 11% 増加しました。

## 4 インシデント対応事例

本四半期に行った対応の例を紹介します。

### 4.1 Ivanti Virtual Traffic Manager の脆弱性により侵害された可能性がある国内機器への通知

海外のセキュリティ組織から、Ivanti Virtual Traffic Manager の脆弱性（CVE-2024-7593）を悪用されて侵害を受けた可能性がある、日本国内の機器の IP アドレスが複数提供されました。

当該脆弱性については、対象となる機器を検索する方法と実証コードが公開されており、被害を受けた機器には特定の管理者ユーザーが作成されている可能性があります。

JPCERT/CC では、IP アドレスを管理する組織に対して、機器に不正なアカウントが作成されていないか調査し、対策としてパッチの適用を検討するよう依頼しました。その結果、連絡が取れた組織から、不正なアカウントが存在しており削除した旨の返信を受領しました。

## JPCERT/CC からのお願い

JPCERT/CC では、インシデントの発生状況や傾向を把握し、状況に応じて、攻撃元や情報発信先等に対する停止・閉鎖を目的とした調整や、利用者向けの注意喚起等の発行により対策実施の必要性の周知を図る活動を通じて、インシデント被害の拡大・再発防止を目指しています。

今後とも JPCERT/CC への情報提供にご協力をお願いします。なお、インシデントの報告方法については、次の Web ページをご参照ください。

- インシデントの報告  
<https://www.jpcert.or.jp/form/>
- インシデントの報告 (Web フォーム)  
<https://form.jpcert.or.jp/>
- 制御システムインシデントの報告  
<https://www.jpcert.or.jp/ics/ics-form.html>
- 制御システムインシデントの報告 (Web フォーム)  
<https://form.jpcert.or.jp/>

報告の暗号化を希望される場合は、JPCERT/CC の PGP 公開鍵をご使用ください。次の Web ページから入手することができます。

- 公開鍵  
<https://www.jpcert.or.jp/keys/info-0x69ECE048.asc>
- PGP Fingerprint :  
FC89 53BB DC65 BD97 4BDA D1BD 317D 97A4 69EC E048

JPCERT/CC では、発行する情報を迅速にお届けするためのメーリングリストを開設しています。利用をご希望の方は、次の情報をご参照ください。

- メーリングリストについて  
<https://www.jpcert.or.jp/announce.html>

## 付録 A インシデントの分類

JPCERT/CC では、寄せられた報告に含まれるインシデントを次の定義に従って分類しています。

### フィッシングサイト

フィッシングサイトとは、銀行やオークション等のサービス事業者の正規サイトを装い、利用者の ID やパスワード、クレジットカード番号等の情報をだまし取る「フィッシング詐欺」に使用されるサイトを指します。

JPCERT/CC では、以下をフィッシングサイトに分類しています。

- 金融機関やクレジットカード会社等のサイトに似せた Web サイト
- フィッシングサイトに誘導するために設置された Web サイト

### Web サイト改ざん

Web サイト改ざんとは、攻撃者もしくはマルウェアによって、Web サイトのコンテンツが書き換えられた（管理者が意図したものではないスクリプトの埋め込みを含む）サイトを指します。

JPCERT/CC では、以下を Web サイト改ざんに分類しています。

- 攻撃者やマルウェア等により悪意のあるスクリプトや iframe 等が埋め込まれたサイト
- SQL インジェクション攻撃により情報が改ざんされたサイト

### マルウェアサイト

マルウェアサイトとは、閲覧することで PC がマルウェアに感染してしまう攻撃用サイトや、攻撃に使用するマルウェアを公開しているサイトを指します。

JPCERT/CC では、以下をマルウェアサイトに分類しています。

- 閲覧者の PC をマルウェアに感染させようとするサイト
- 攻撃者によりマルウェアが公開されているサイト

### スキャン

スキャンとは、サーバーや PC 等の攻撃対象となるシステムの存在確認やシステムに不正に侵入するための弱点（セキュリティホール等）探索を行うために、攻撃者によって行われるアクセス（システムへの影響がないもの）を指します。また、マルウェア等による感染活動も含まれます。

JPCERT/CC では、以下をスキャンと分類しています。

- 弱点探索（プログラムのバージョンやサービスの稼働状況の確認等）
- 侵入行為の試み（未遂に終わったもの）
- マルウェア（ウイルス、ボット、ワーム等）による感染の試み（未遂に終わったもの）
- ssh、ftp、telnet 等に対するブルートフォース攻撃（未遂に終わったもの）



## DoS/DDoS

**DoS/DDoS**とは、ネットワーク上に配置されたサーバーやPC、ネットワークを構成する機器や回線等のネットワークリソースに対して、サービスを提供できないようにする攻撃を指します。

JPCERT/CCでは、以下を**DoS/DDoS**と分類しています。

- 大量の通信等により、ネットワークリソースを枯渇させる攻撃
- 大量のアクセスによるサーバープログラムの応答の低下、もしくは停止
- 大量のメール（エラーメール、SPAMメール等）を受信させることによるサービス妨害

## 制御システム関連インシデント

**制御システム関連インシデント**とは、制御システムや各種プラントが関連するインシデントを指します。

JPCERT/CCでは、以下を**制御システム関連インシデント**と分類しています。

- インターネット経由で攻撃が可能な制御システム
- 制御システムを対象としたマルウェアが通信を行うサーバー
- 制御システムに動作異常等を発生させる攻撃

## 標的型攻撃

**標的型攻撃**とは、特定の組織、企業、業種などを標的として、マルウェア感染や情報の窃取などを試みる攻撃を指します。

JPCERT/CCでは、以下を**標的型攻撃**と分類しています。

- 特定の組織に送付された、マルウェアが添付されたなりすましメール
- 閲覧する組織が限定的である Web サイトの改ざん
- 閲覧する組織が限定的である Web サイトになりすまし、マルウェアに感染させようとするサイト
- 特定の組織を標的としたマルウェアが通信を行うサーバー

## その他

**その他**とは、上記以外のインシデントを指します。

JPCERT/CCが**その他**に分類しているものの例を次に掲げます。

- 脆弱性等を突いたシステムへの不正侵入
- ssh、ftp、telnet 等に対するブルートフォース攻撃の成功による不正侵入
- キーロガー機能を持つマルウェアによる情報の窃取
- マルウェア（ウイルス、ボット、ワーム等）の感染

本文書を引用、転載する際には JPCERT/CC 広報 (pr@jpcert.or.jp) まで確認のご連絡をお願いします。

本文書に記載の社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

最新情報については JPCERT/CC の Web サイトを参照してください。

- JPCERT コーディネーションセンター (JPCERT/CC) : <https://www.jpcert.or.jp/>
- インシデント情報の提供および対応依頼 : info@jpcert.or.jp, <https://www.jpcert.or.jp/form/>
- 脆弱性情報ハンドリングに関するお問い合わせ : vultures@jpcert.or.jp
- 制御システムセキュリティに関するお問い合わせ : dc-info@jpcert.or.jp
- セキュアコーディングセミナーのお問い合わせ : secure-coding@jpcert.or.jp
- 公開資料の引用、講演依頼、その他のお問い合わせ : pr@jpcert.or.jp
- PGP 公開鍵について : <https://www.jpcert.or.jp/jpcert-pgp.html>

## JPCERT/CC インシデント報告対応レポート [ 2024 年 10 月 1 日~2024 年 12 月 31 日 ]

- 発行履歴
  - 2025 年 1 月 23 日 初版
  - 2025 年 1 月 23 日 誤植修正
- 発行者
  - 一般社団法人 JPCERT コーディネーションセンター
  - 〒103-0023
  - 東京都中央区日本橋本町 4-4-2 東山ビルディング 8 階
  - TEL 03-6271-8901 FAX 03-6271-8908
  - URL <https://www.jpcert.or.jp/>